

消費増税に関する意識調査

「節約意識」と「節約行動」

【指針盤 自主調査】

2014.5.7

調査概要

■調査の目的

2014年4月の消費増税実施後1ヶ月において、生活者はどのような消費費目について「節税意識」を抱きかつ、実際どの程度「節約行動」をしているかを把握する。

■調査実施日 2014年4月23日(水)～5月1日(木)

■2軸の質問項目の想定と回答方法

家庭における主な消費領域として16費目を設定し、「節税する意識の度合い」と実際の「節税する行動の度合い」についてそれぞれ4段階を設定し、各ひとつの選択により回答を得た。

■調査エリアと調査方法 全国Web調査

■分析方法 「指針盤」ツール活用による単純集計および2軸4象限偏差値プロット分析(OP.相関分析)

■有効回答者数 無作為抽出 男女計130人 回収サンプルの特徴としては「30代から60代」、「会社員および自営」、「関東」が多い。

性別		
	(N)	(%)
男	98	75.4%
女	32	24.6%
サンプル数	130	100.0%

未既婚		
	(N)	(%)
未婚	33	25.4%
既婚	97	74.6%
サンプル数	130	100.0%

同居家族		
	(N)	(%)
有	102	78.5%
無	28	21.5%
サンプル数	130	100.0%

年代		
	(N)	(%)
10代	0	0.0%
20代	4	3.1%
30代	29	22.3%
40代	30	23.1%
50代	23	17.7%
60代	39	30.0%
70代	5	3.8%
80代以上	0	0.0%
サンプル数	130	100.0%

職業		
	(N)	(%)
学生	0	0.0%
会社員	83	63.8%
公務員	0	0.0%
パート・アルバイト	3	2.3%
派遣	0	0.0%
自営	24	18.5%
専業主婦	5	3.8%
無職	9	6.9%
その他	6	4.6%
サンプル数	130	100.0%

お住まい		
	(N)	(%)
北海道	0	0.0%
東北	0	0.0%
関東	123	94.6%
中部	2	1.5%
近畿	1	0.8%
中国	2	1.5%
四国	0	0.0%
九州・沖縄	2	1.5%
サンプル数	130	100.0%

■属性

性別	男	職業	学生
	女		会社員
お住まい	北海道		公務員
	東北		パート・アルバイト
	関東		派遣
	中部		自営
	近畿		専業主婦
	中国		無職
	四国		その他
年代	九州・沖縄		未婚
	10代	既婚	
	20代	同居家族	有
	30代		無
	40代		
50代			
60代			
70代			
80代以上			

■全般的な節約意識・行動他

あなたの現在の節約意識についてお伺いします。	かなり意識している
	それなりに意識している
	あまり意識していない
	全く意識していない
あなたの現在の節約行動についてお伺いします。	必ず実行している
	それなりに実行している
	あまり実行していない
	全く実行していない
増税による負担増についてお伺いします。	非常に感じる
	それなりに感じる
	あまり感じない
	全く感じない
2015年10月から消費税が10%になることについてお伺いします。	実施すべき
	已む得ない
	実施すべきではない

■節約費目に関する「節約意識の度合い」と「節約している度合い」の回答方法

	節約費目	節約意識の度合い				実際に節約している度合い			
		かなり意識している	それなりに意識している	あまり意識していない	全く意識していない	必ず実行している	それなりに実行している	あまり実行していない	全く実行していない
1	日常食料品	1	2	3	4	1	2	3	4
2	光熱費	1	2	3	4	1	2	3	4
3	通信費	1	2	3	4	1	2	3	4
4	小遣い	1	2	3	4	1	2	3	4
5	医療費	1	2	3	4	1	2	3	4
6	衣服費	1	2	3	4	1	2	3	4
7	交際費	1	2	3	4	1	2	3	4
8	外食	1	2	3	4	1	2	3	4
9	趣味	1	2	3	4	1	2	3	4
10	嗜好品	1	2	3	4	1	2	3	4
11	旅行やレジャー	1	2	3	4	1	2	3	4
12	お稽古事	1	2	3	4	1	2	3	4
13	冠婚葬祭	1	2	3	4	1	2	3	4
14	保険	1	2	3	4	1	2	3	4
15	ローン・クレジット	1	2	3	4	1	2	3	4
16	住宅住居関連	1	2	3	4	1	2	3	4

集計・分析結果のまとめ

■「節約意識」と「節約行動」(P9)

「節約を意識」して実際に「節約を実行」している人は72%を超えるが、やや意識優先といえる。また、増税の負担感をかなり感じるものの、ある種のアきらめとある程度の許容がみてとれる。

■増税の負担感(P10)

「節約意識」がある費目は「節約行動」もしているものの、「節約意識」と実際の「節約行動」の優先順位(平均優先度)は必ずしも一致していない。

これは、「節約意識」と実際の「節約行動」の両者に優先順位の乖離があることを裏付けた。

■16費目の「節約意識」と「節約行動」の全体構造(P25)

今回の増税によって、「日常食料品」、「外食」、「衣服費」の3費目は「節約意識」と「節約行動」が相対的に高まっていた。

反面、「冠婚葬祭」、「医療費」、「お稽古事」の3費目は今回の増税によって「節約意識」と「節約行動」ともに影響は相対的に受けていなかった。

また、「節約の意識行動」ともにほぼ平均に位置した(影響度が中庸)費目として「交際費」が該当した。「交際費」は状況によって変化しやすいことも予見された。

日常の消費生活の中で、相対的に「節約できる」費目と「節約しにくい」費目が明らかになったことは、今後の消費行動や税のあり方に大きな示唆をもたらす結果となった。

■16費目の「節約行動」の相関関係(P39)

消費者は次の2費目についての「節約行動」について、無意識のうちに同じカテゴリーと感じていると解釈できた。

- ・「通信費」と「光熱費」
- ・「外食」と「交際費」
- ・「嗜好品」と「趣味」
- ・「冠婚葬祭」と「お稽古事」
- ・「ローン・クレジット」と「保険」
- ・「住宅住居関連」と「保険」
- ・「住宅住居関連」と「ローン・クレジット」

■性別、未既婚、職業別の「節約意識」と「節約行動」について、全体との相対的な特徴(P27)

- ・男性は、「交際費」を節約する。
- ・女性は、「小遣い」を節約し、「交際費」、「趣味」を節約しない。

- ・未婚者は、「光熱費」、「小遣い」、「交際費」、「住宅住居関連」を節約しない。
- ・既婚者は特徴はなかった。(全体と同じであった。)

- ・会社員は、「通信費」、「交際費」を節約する。
- ・自営は、「交際費」を節約し、「光熱費」、「小遣い」、「趣味」を節約しない。

■年代別の「節約意識」と「節約行動」について、全体との相対的な特徴(P34)

- ・30代は、「小遣い」、「交際費」を節約しない。

- ・40代は、「光熱費」、「通信費」を節約し、「ローン・クレジット」、「住宅住居関連」を節約しない。

- ・60代は、「交際費」、「ローン・クレジット」を節約し、「趣味」、「嗜好品」を節約しない。

- ・50代は特徴はなかった。(全体と同じであった。)

集計・分析の詳細

増税に関する全般的な「意識」と「行動」

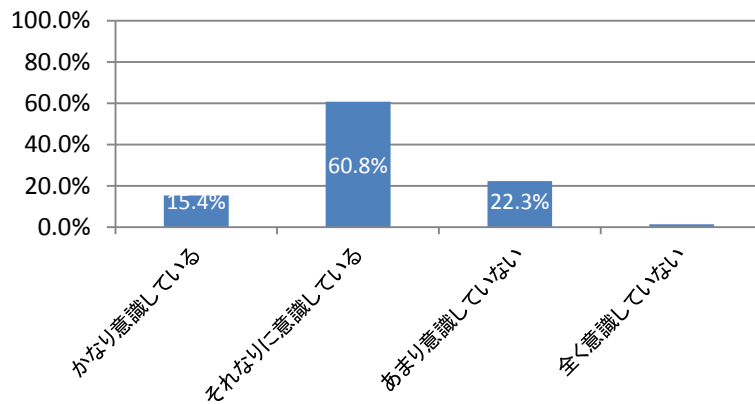
【単純集計 N130】

現在の「節約意識」は、「かなり意識している」15.4%、「それなりに意識している」60.8%と「意識している」は76.2%。

実際の「節約行動」は、「必ず実行している」4.6%、「それなりに実行している」67.7%と「実行している」は72.3%。

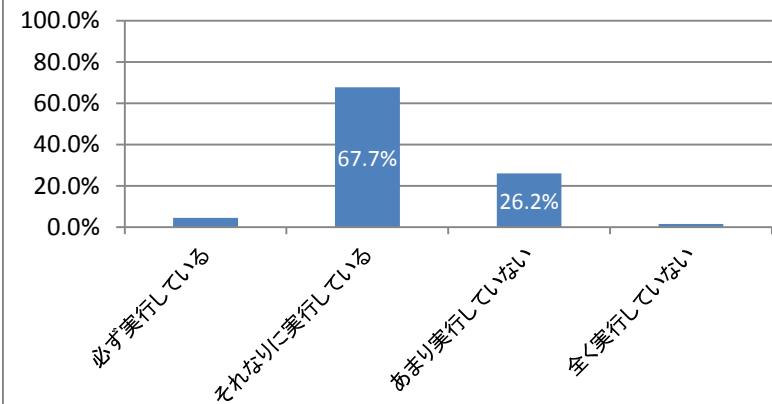
一般的に、「節約を意識」して実際に「節約を実行」している人は72%を超えるが、やや意識優先といえる。

あなたの現在の節約意識についてお伺いします



	(N)	(%)
かなり意識している	20	15.4%
それなりに意識している	79	60.8%
あまり意識していない	29	22.3%
全く意識していない	2	1.5%
サンプル数	130	100.0%

あなたの現在の節約行動についてお伺いします

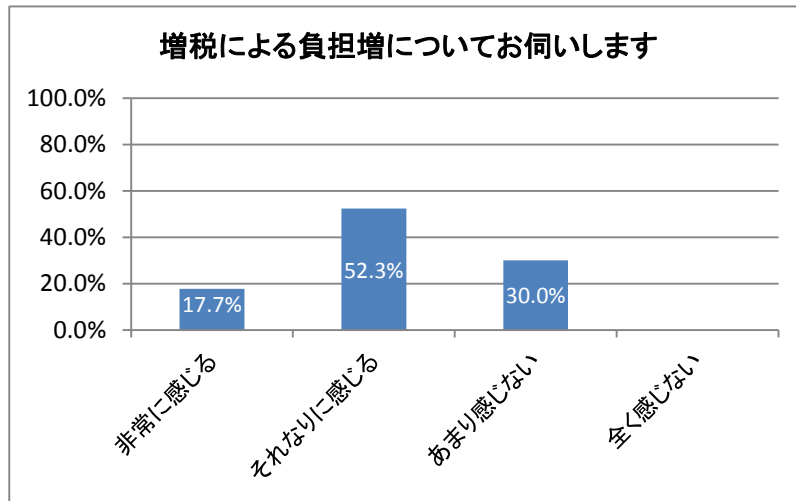


	(N)	(%)
必ず実行している	6	4.6%
それなりに実行している	88	67.7%
あまり実行していない	34	26.2%
全く実行していない	2	1.5%
サンプル数	130	100.0%

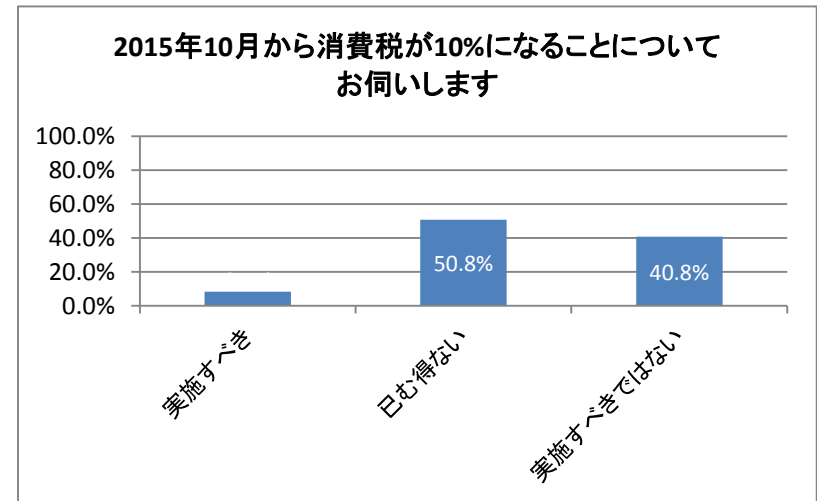
増税による負担増は、「非常に感じる」17.7%、「それなりに感じる」52.3%と増税の負担増を感じる人は70%。

消費税10%については、「実施すべき」8.5%、「已むを得ない」50.8%と肯定派は59.3%と過半数を超える。

一般的に、増税の負担感をかなり感じるものの、ある種のアきらめとある程度の許容がみてとれる。



	(N)	(%)
非常に感じる	23	17.7%
それなりに感じる	68	52.3%
あまり感じない	39	30.0%
全く感じない	0	0.0%
サンプル数	130	100.0%

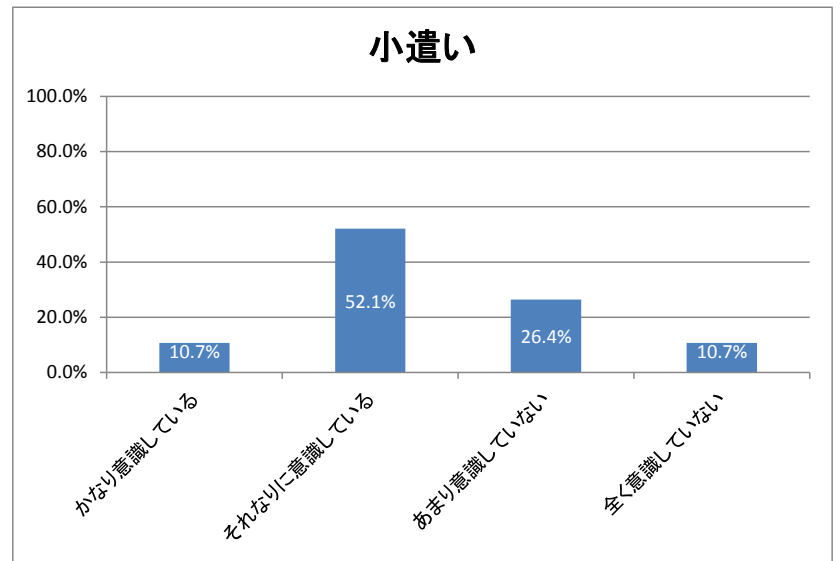
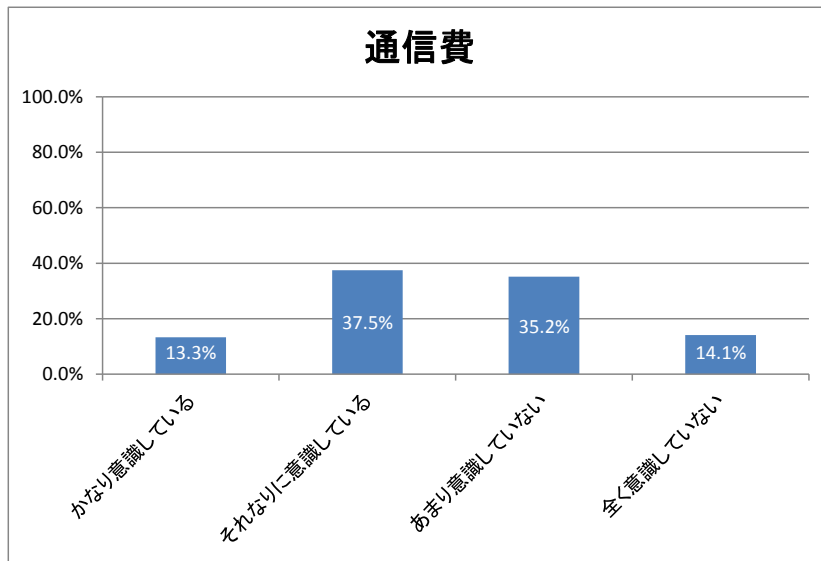
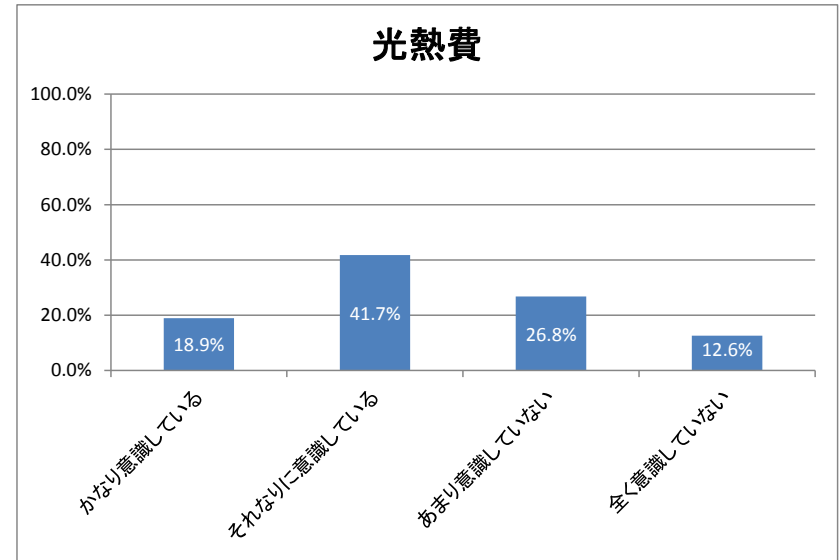
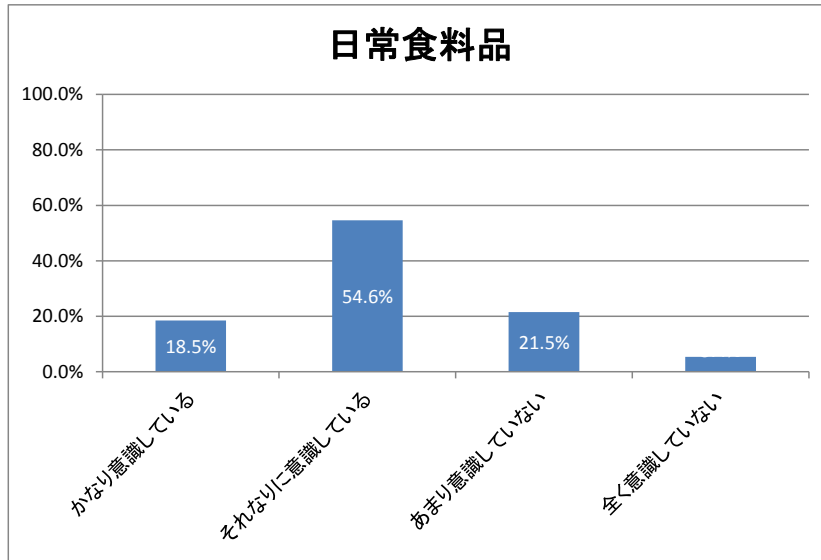


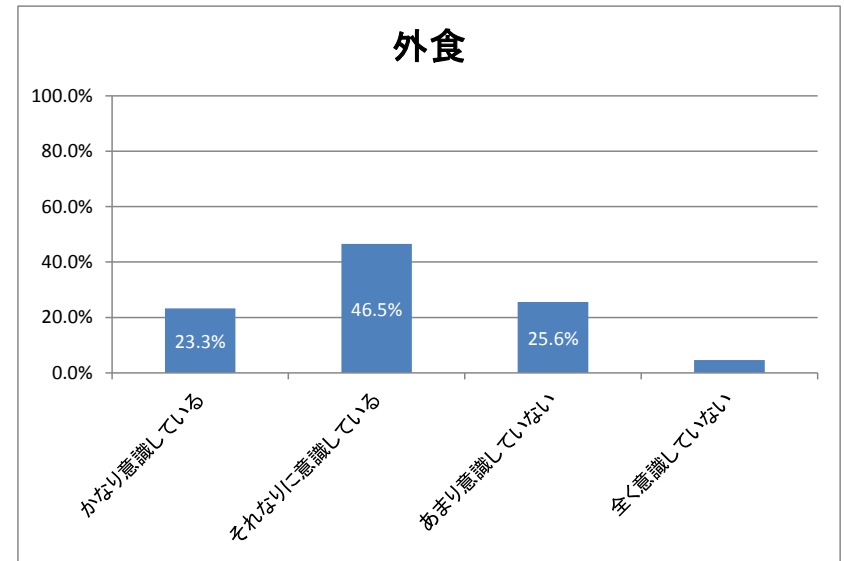
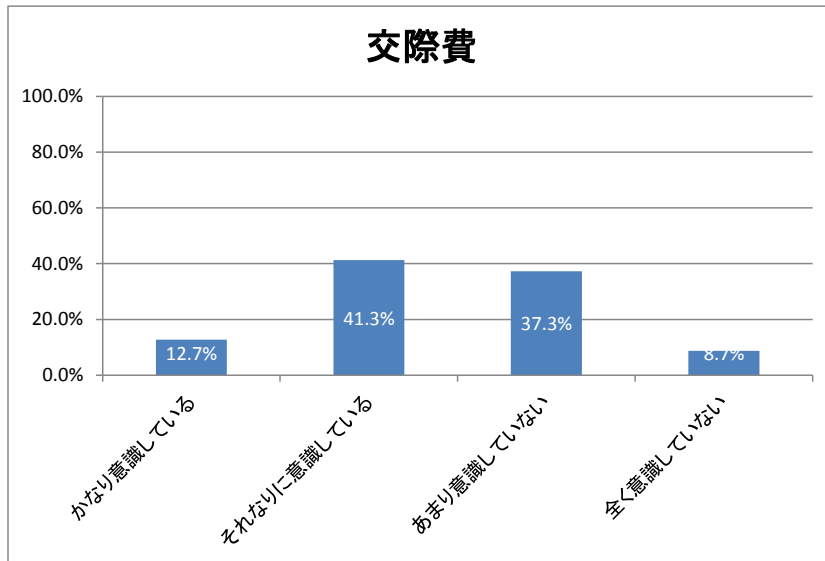
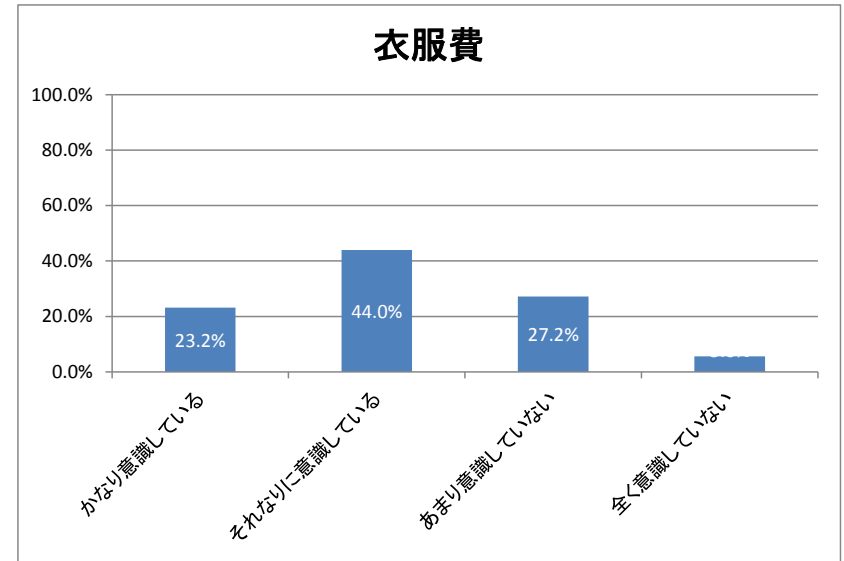
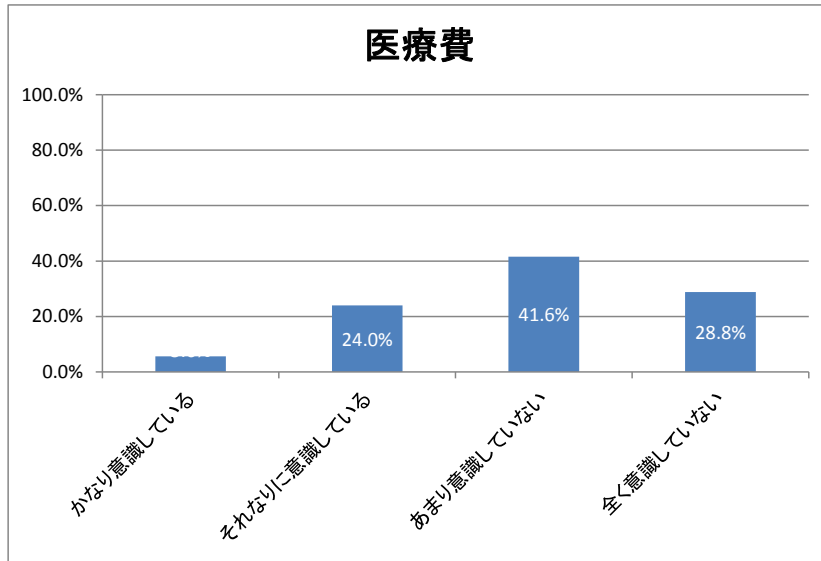
	(N)	(%)
実施すべき	11	8.5%
已む得ない	66	50.8%
実施すべきではない	53	40.8%
サンプル数	130	100.0%

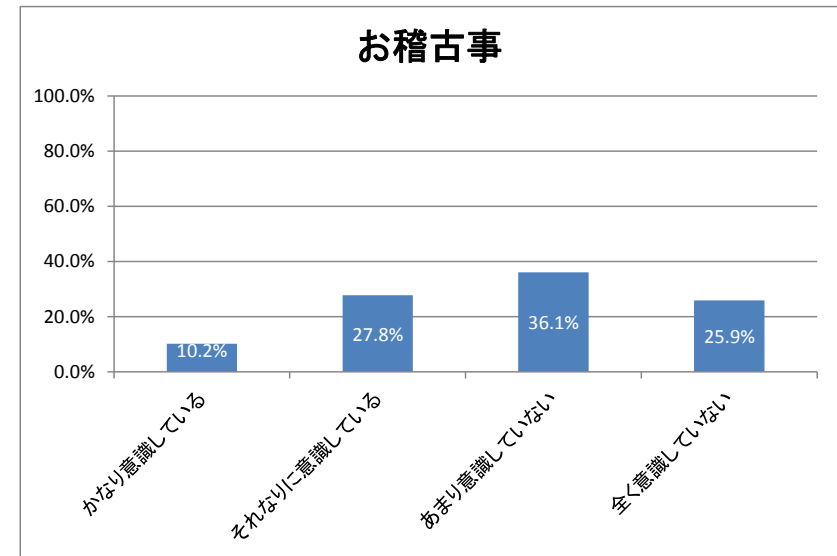
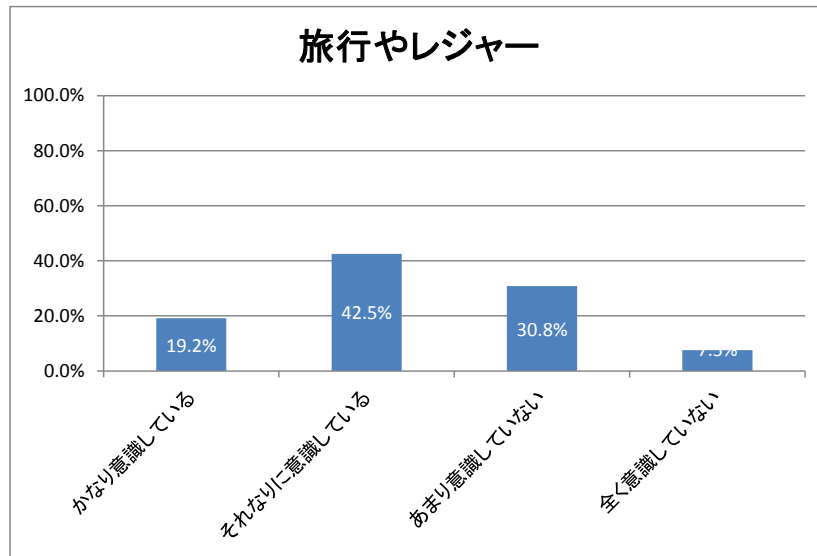
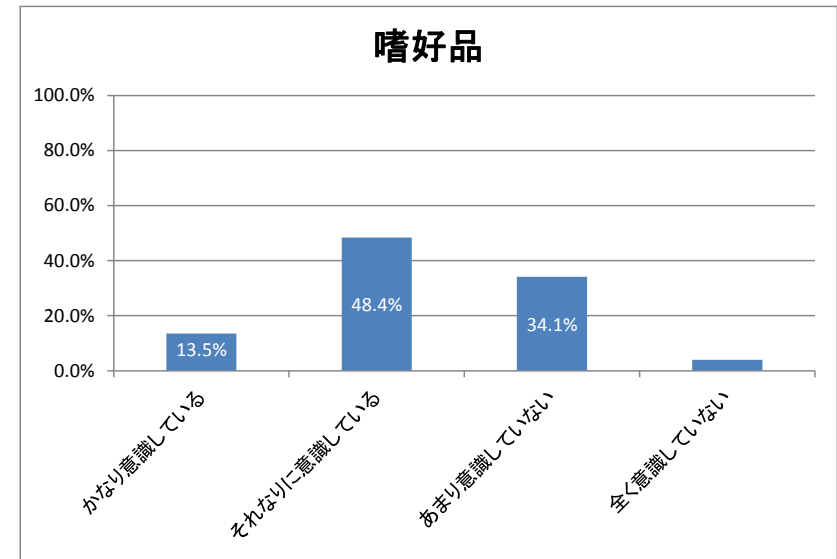
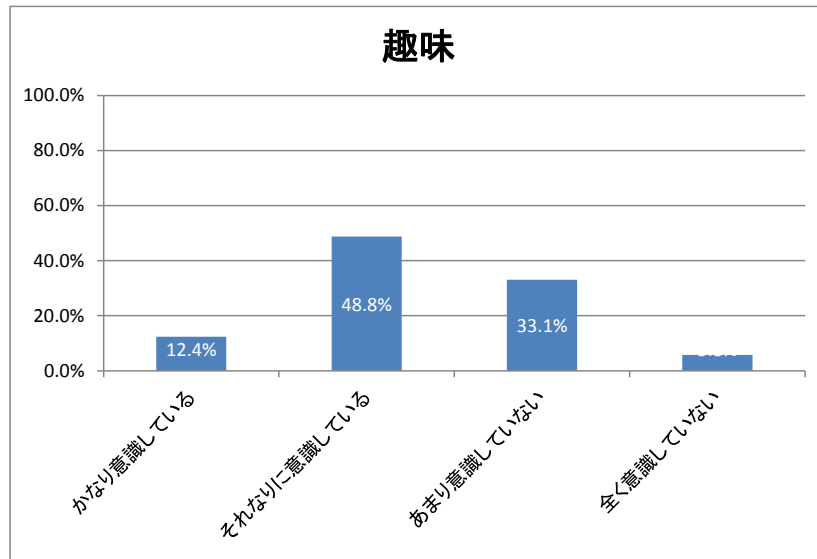
16費目別の単純集計結果

【N130】

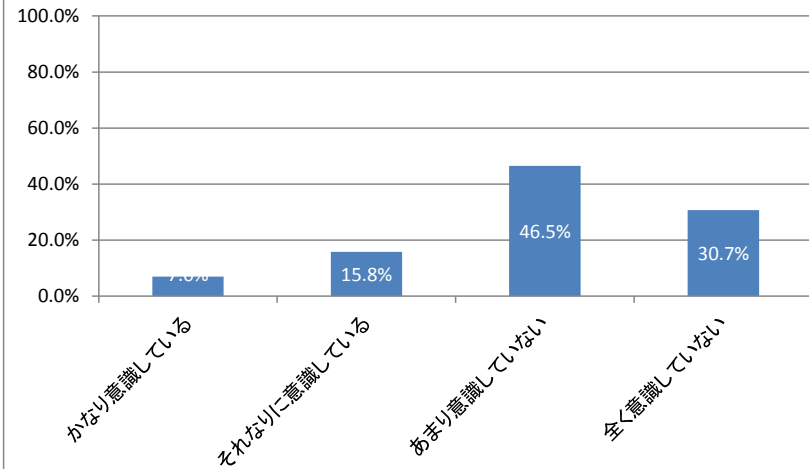
「意識している」度合い



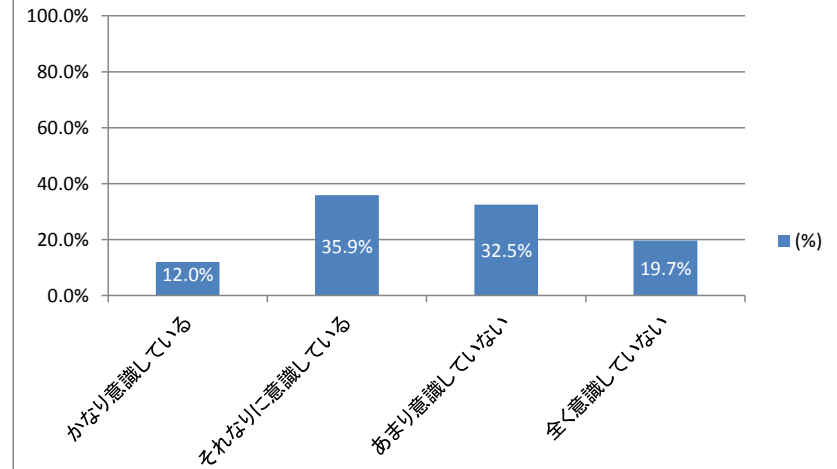




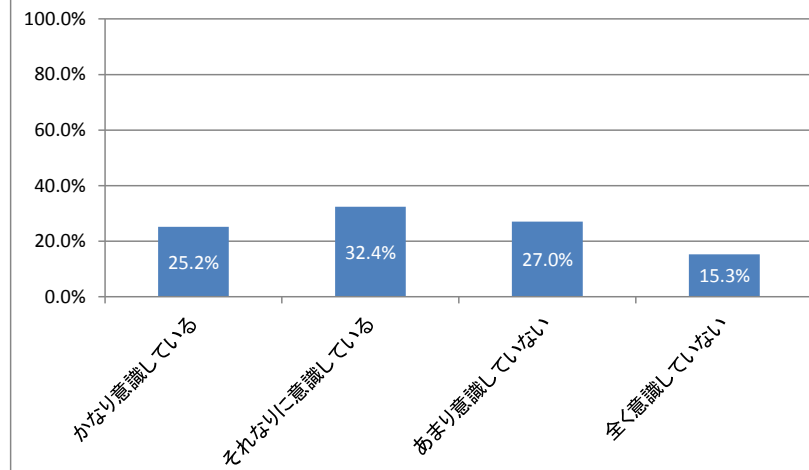
冠婚葬祭



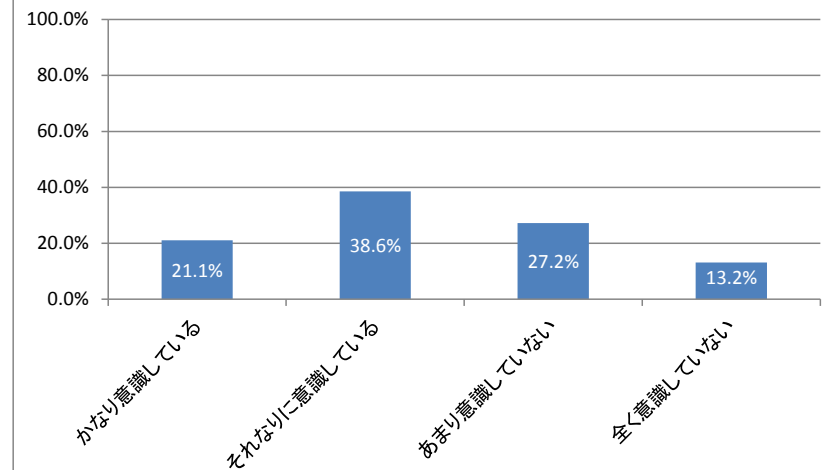
保険



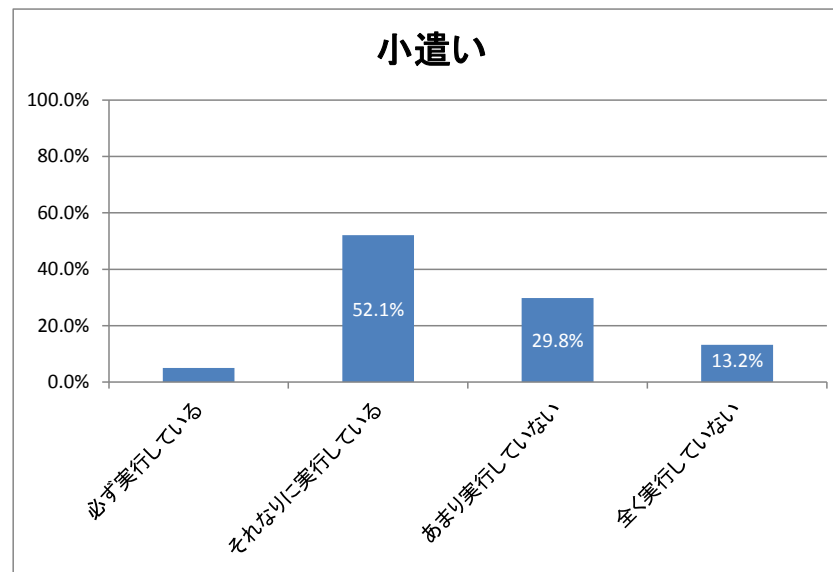
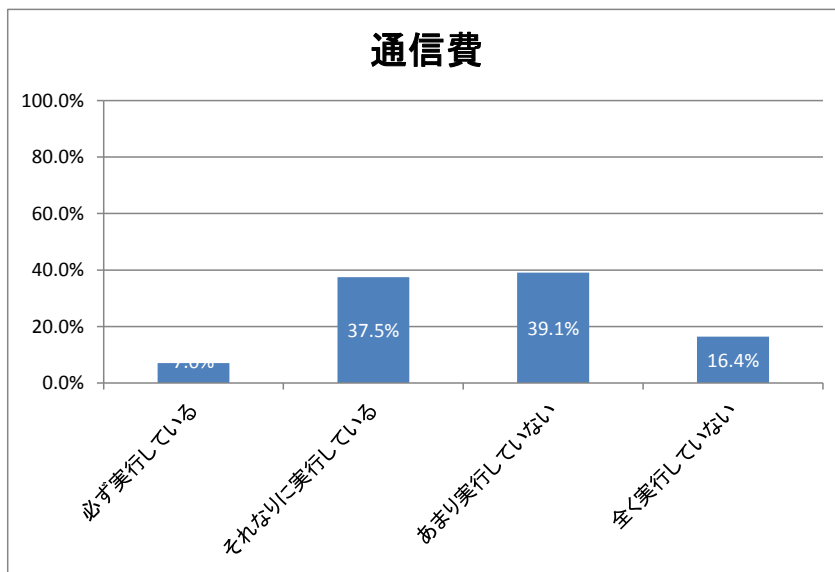
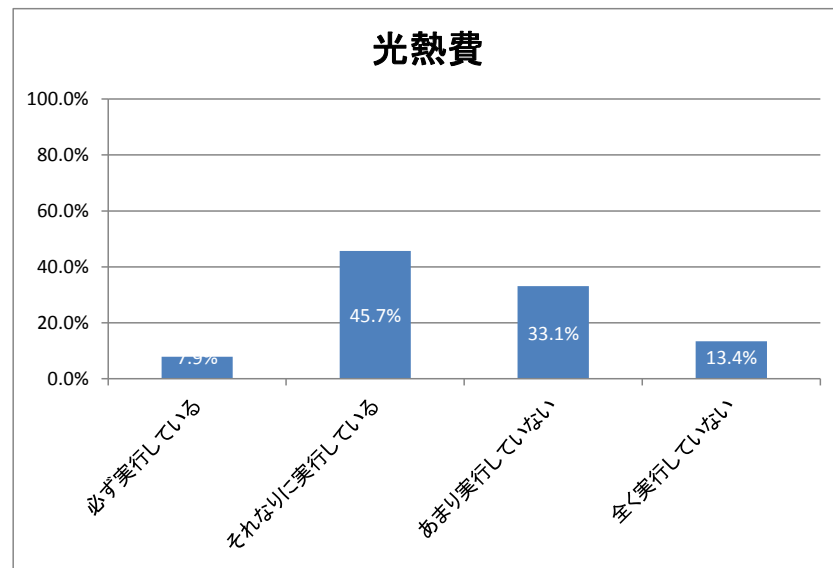
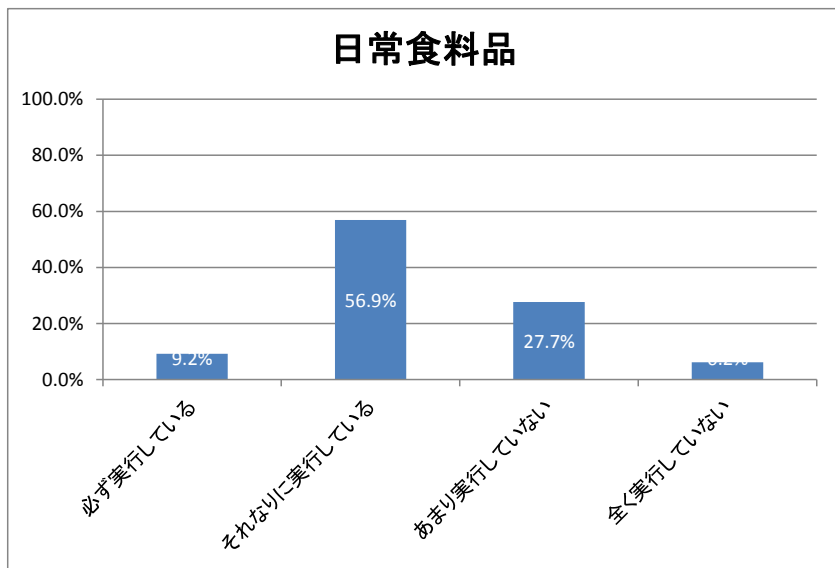
ローン・クレジット



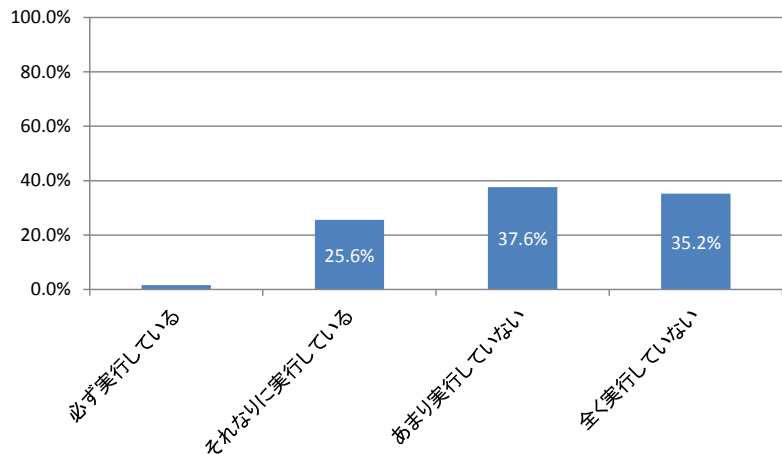
住宅住居関連



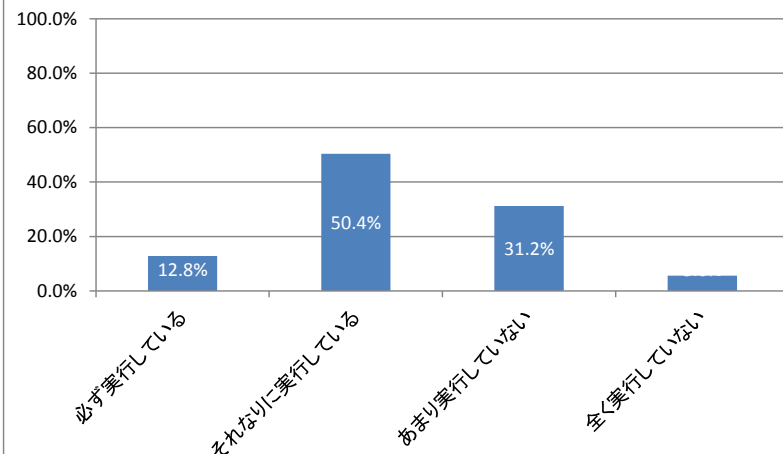
「実行している」度合い



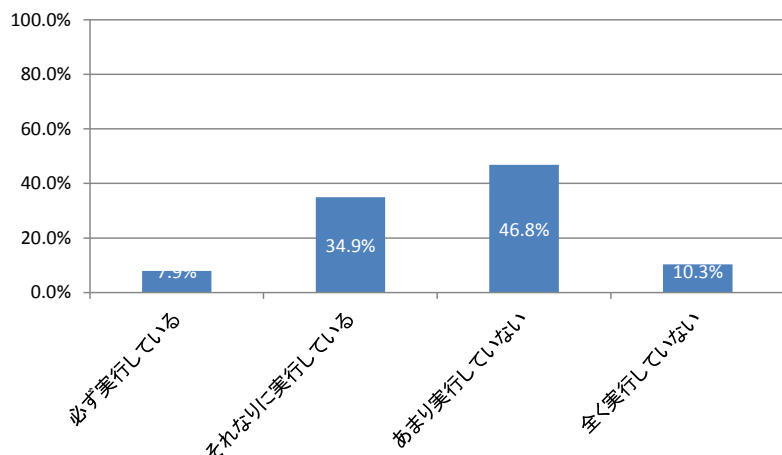
医療費



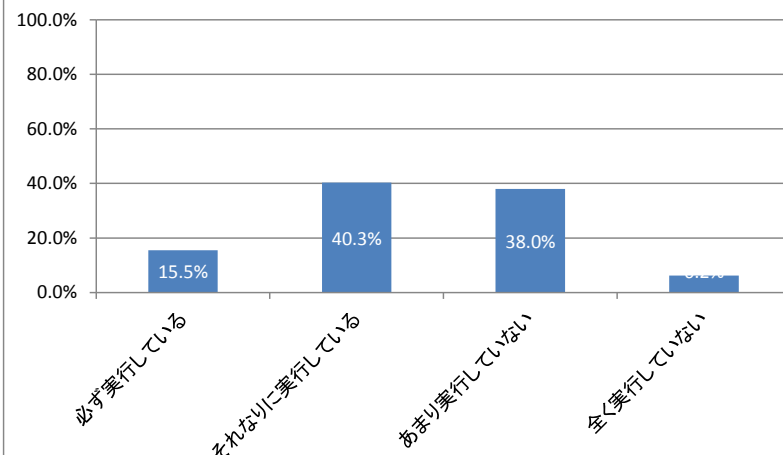
衣服費

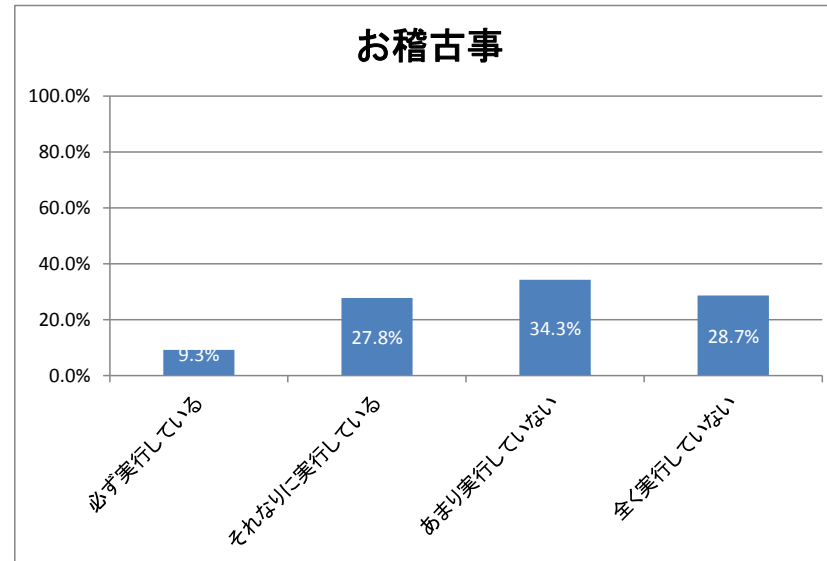
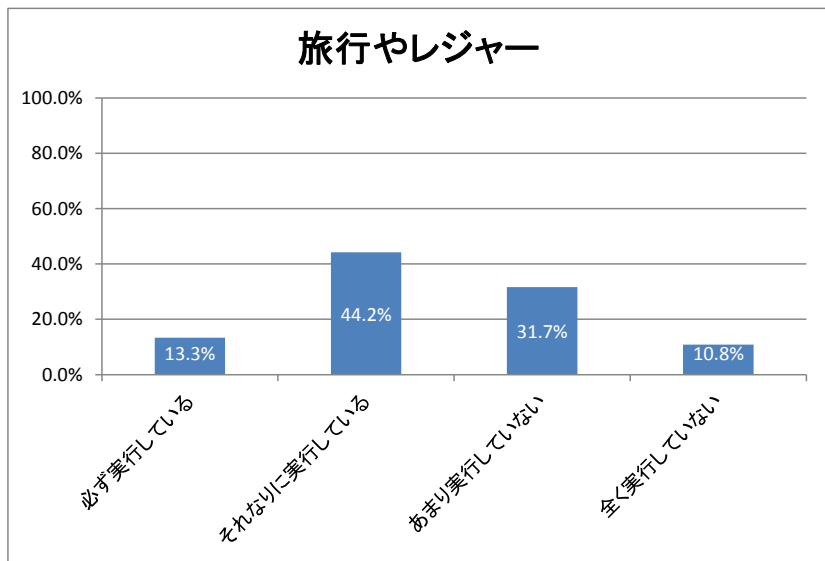
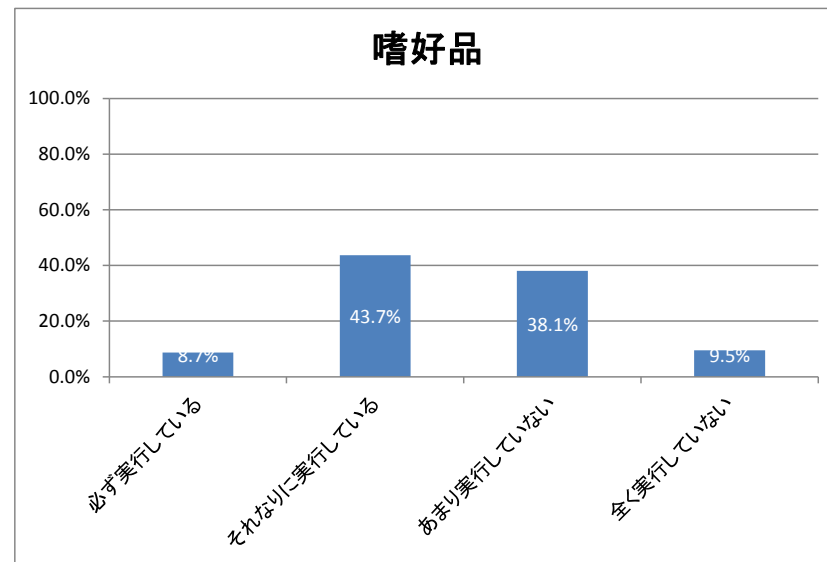
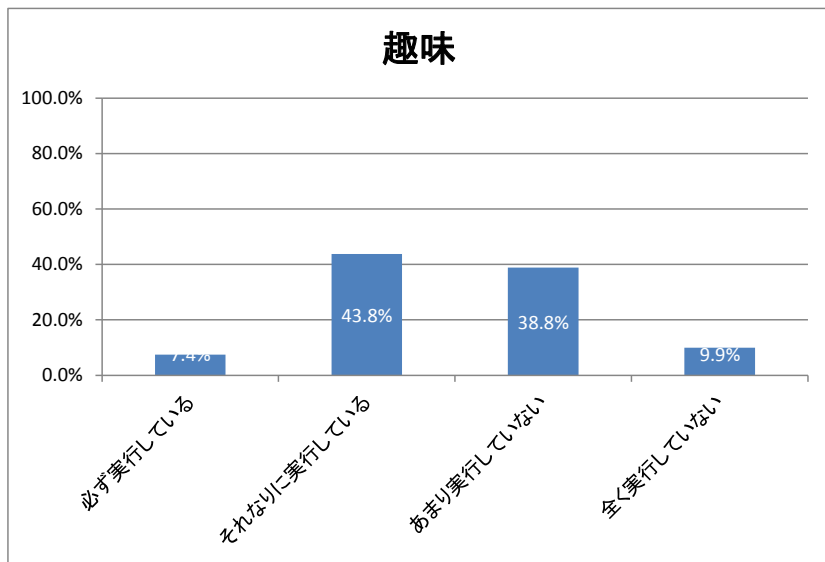


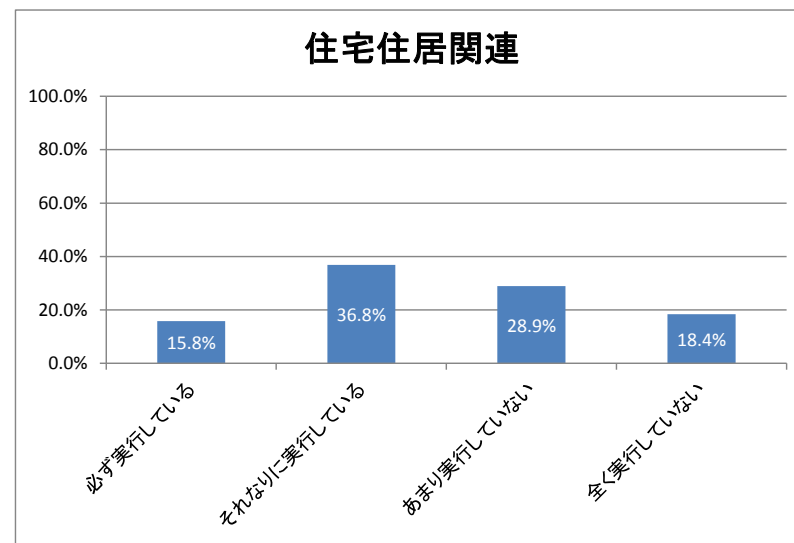
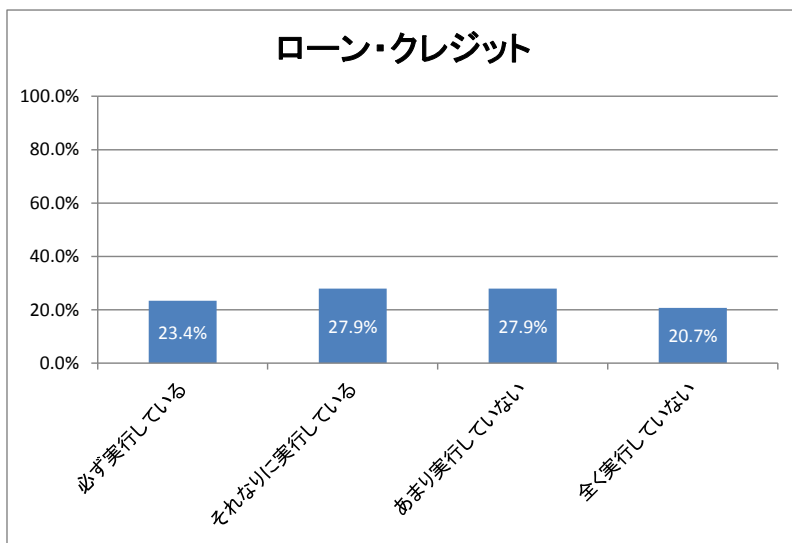
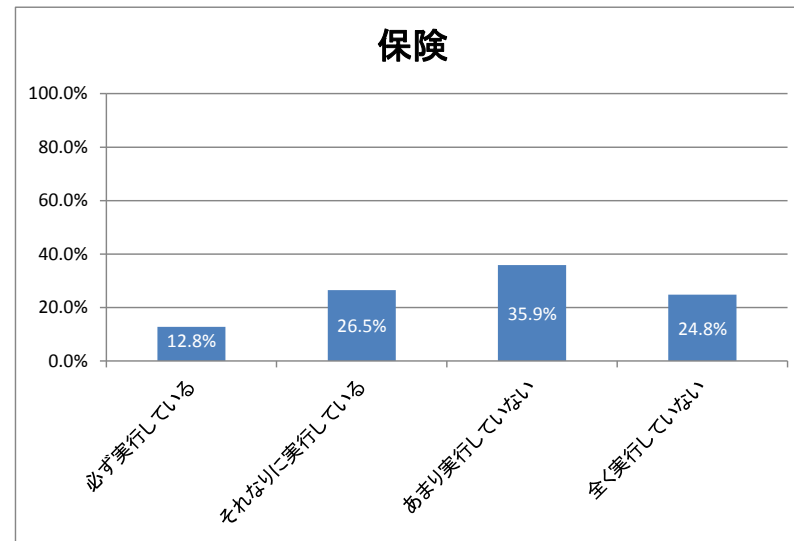
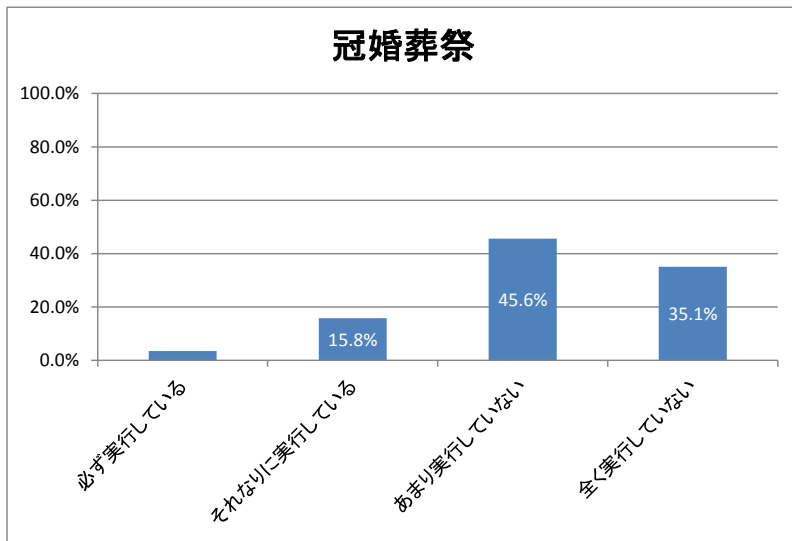
交際費



外食







「節約意識」と「節約行動」の全体構造

【16費目の平均優先度と2軸4象限プロット(全体N130)】

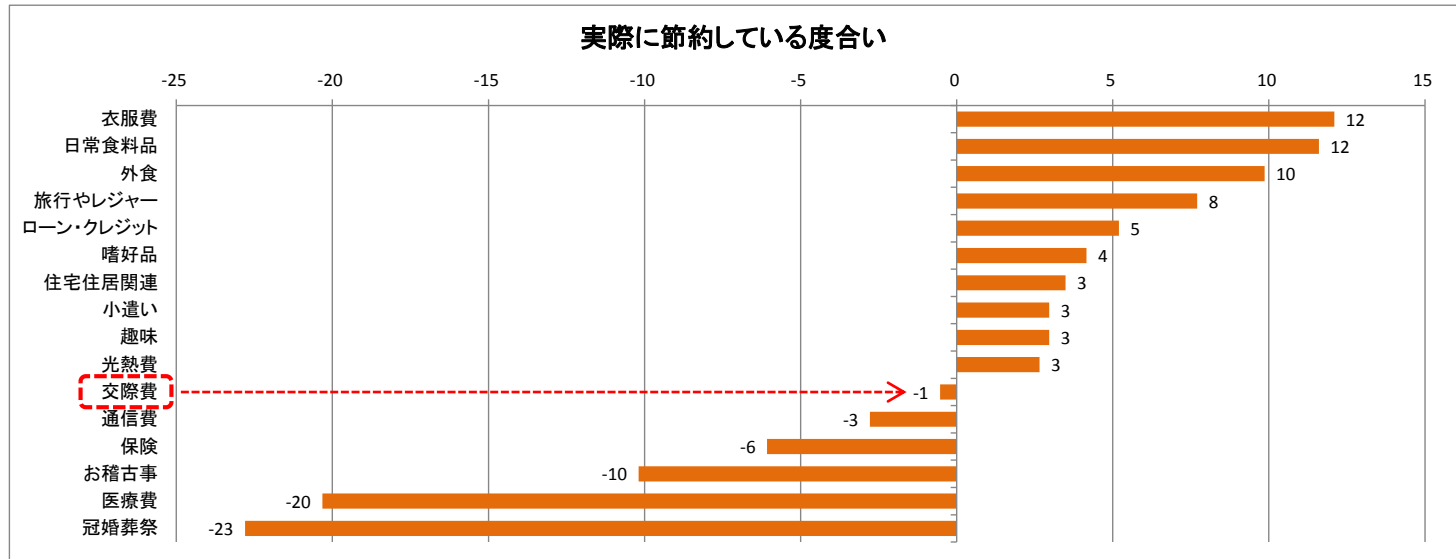
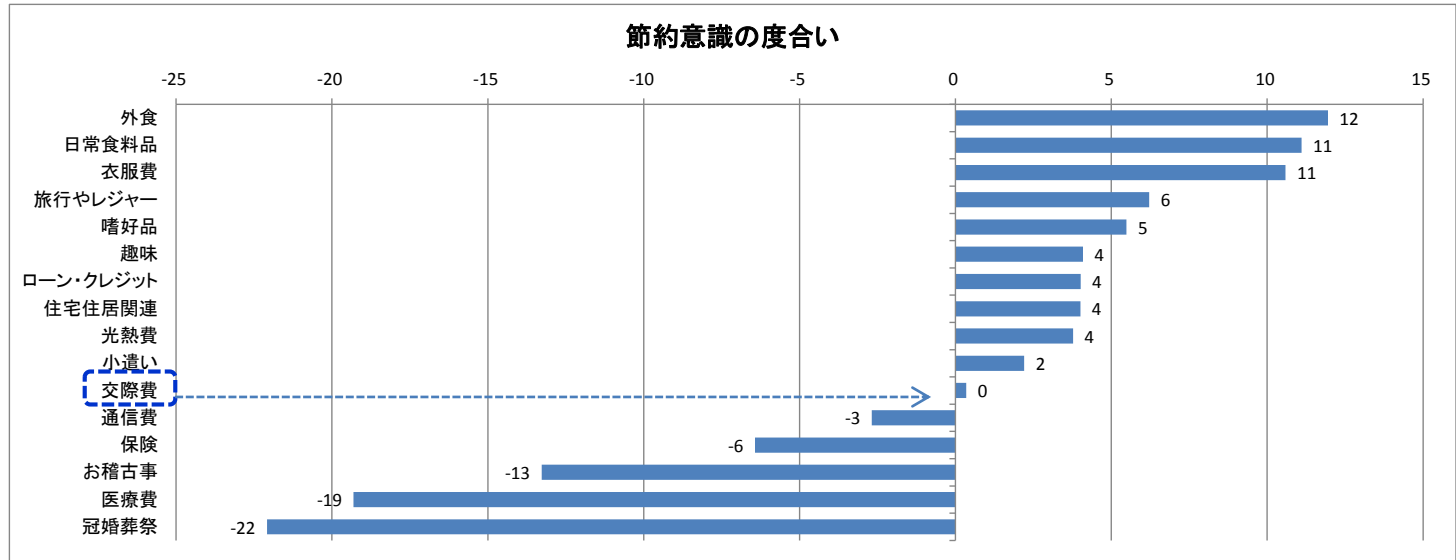
グラフ①は16費目の回答に、「節約意識」4段階、「節約行動」4段階にそれぞれに重みをつけて偏差値を計算し、16費目を平均優先度として表したものである。

全体的には「節約意識」がある費目は「節約行動」もしているものの、「節約意識」と実際の「節約行動」の平均優先順位は必ずしも一致していない。これは、「節約意識」と実際の「節約行動」の順位に乖離があることを裏付けた。

例えば「交際費」は「節約意識」はプラス、実際の「節約行動」はマイナスと、意識と行動に乖離があった。「交際費」は「節約意識」はあるものの、実際に「節約行動」はできていないことを意味している。

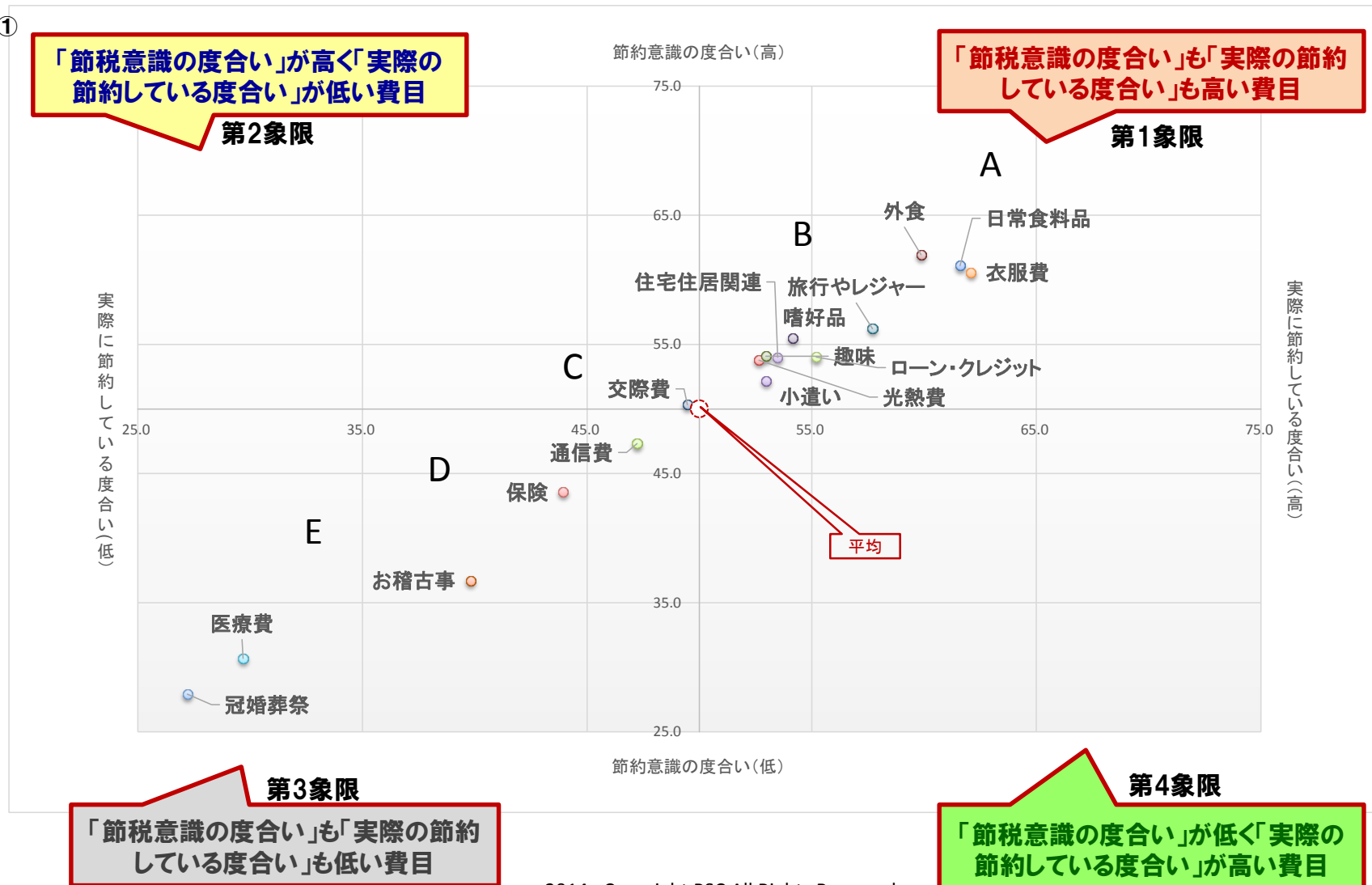
グラフ①

・数値は偏差値から50を引いた値 ・ゼロは偏差値50で平均を表す

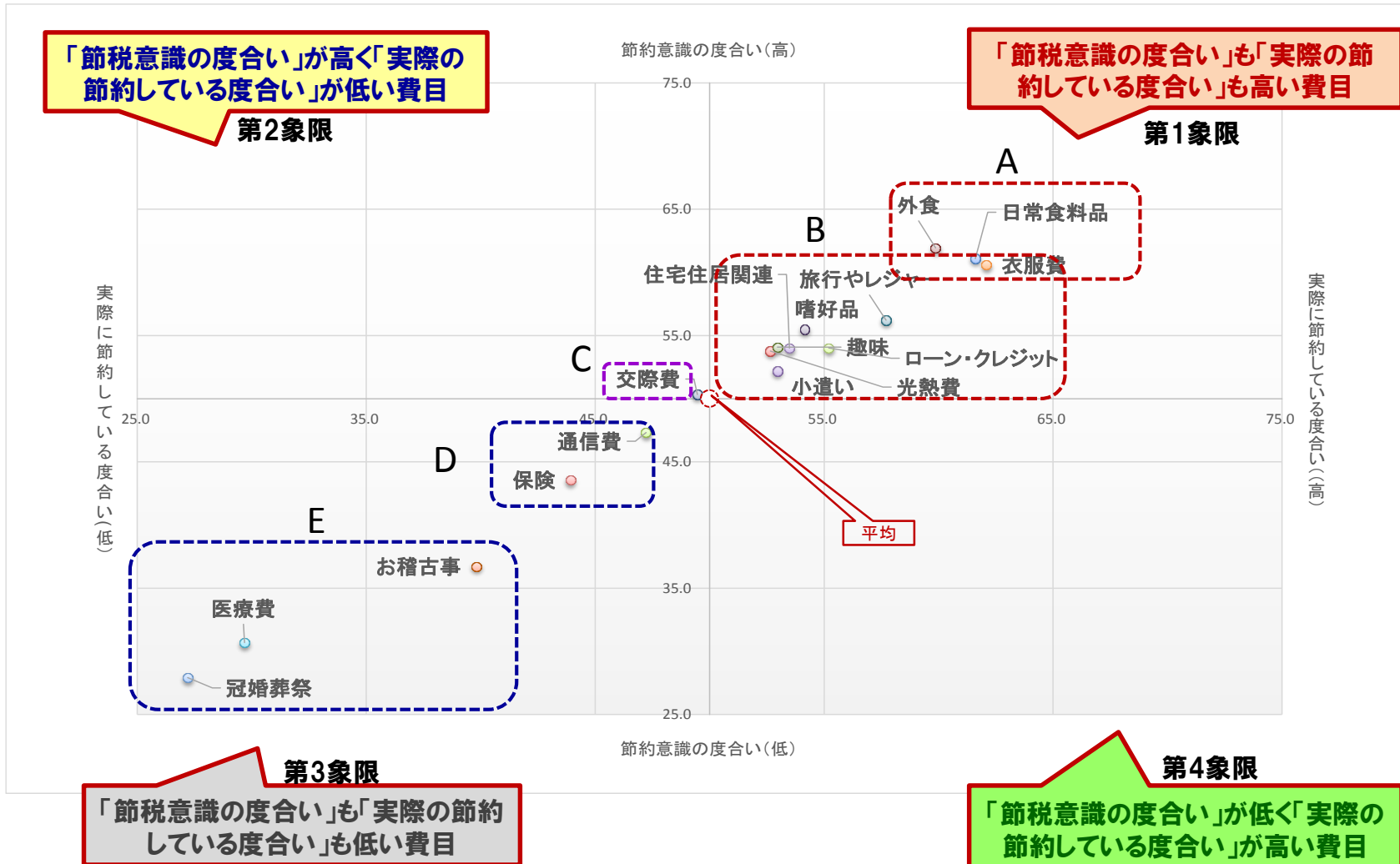


図①は、「節約意識」と「節約行動」の各偏差値の平均以上及び平均以下の組合せで16費目を4象限にプロットしたものである。第1象限は「節約意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も高い費目で10費目が該当、第2象限は「節約意識の度合い」が高く「実際の節約している度合い」が低い費目で1費目が該当、第3象限は「節約意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も低い費目で5費目が該当、第4象限は「節約意識の度合い」が低く「実際の節約している度合い」が高い費目で該当はなかった。

図①



16費目を視覚的にAからEの5つのテゴリーに分類してみた。Aは「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も高い費目として顕著な3費目(日常食料品、外食、衣服費)、Cは「節税意識の度合い」が高く「実際の節約している度合い」が低い領域であるものの意識行動ともにほぼ平均に位置した費目として1費目(交際費)、Eは「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も低い費目として顕著な3費目(冠婚葬祭、医療費、お稽古事)が該当した。今回の増税によってAの3費目は「節約意識と節約行動」が高まったものの、Eの3費目は今回の増税によっては「節約意識と節約行動」ともに影響は受けなかったと解釈できた。



「節約意識」と「節約行動」の属性別構造

【16費目の属性別2軸4象限プロット】

- 1 男性(N98) 2 女性(N32) 3 既婚者(N97) 4 未婚者(N33) 5 会社員(N83) 6 自営(N24)
7 30代(N29) 8 40代(N30) 9 50代(N23) 10 60代(N39)

表①は、「節約意識」と「節約行動」について、4象限プロットからみた全体と比較した属性別の特徴をまとめたものである。特徴の捉え方は、意識の高低差はあるものの、節約行動の高低に基点をおいて次のように表現した。（詳細は次ページ以降を参照）

- ・男性は、「交際費」を節約する。
- ・女性は、「小遣い」を節約し、「交際費」、「趣味」を節約しない。
- ・会社員は、「通信費」、「交際費」を節約する。
- ・自営は、「交際費」を節約し、「光熱費」、「小遣い」、「趣味」を節約しない。
- ・未婚者は、「光熱費」、「小遣い」、「交際費」、「住宅住居関連」を節約しない。
- ・既婚者は特徴はなかった。（全体と同じであった。）

表①

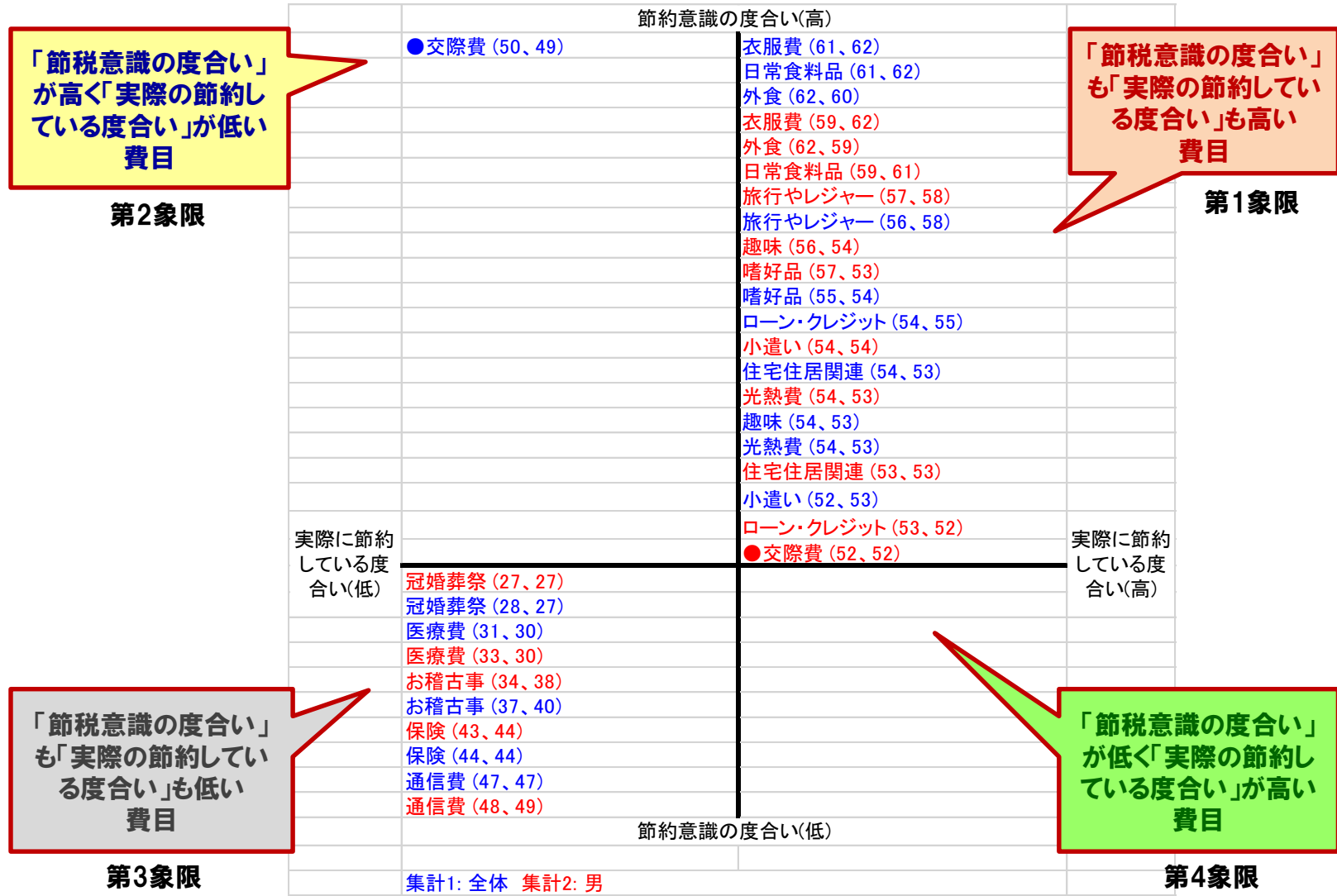
	第1象限	第4象限	第2象限	第3象限
	「節約意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も高い	「節約意識の度合い」が低く「実際の節約している度合い」が高い	「節約意識の度合い」が高く「実際の節約している度合い」が低い	「節約意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も低い
節約意識	相対的に節約意識が高い	相対的に節約意識が低い	相対的に節約意識が高い	相対的に意識が低い
節約行動	相対的に節約する		相対的に節約しない	
1 日常食料品				
2 光熱費			自営	未婚者
3 通信費		会社員		
4 小遣い		女性	自営	未婚者
5 医療費				
6 衣服費				
7 交際費	男性 会社員 自営			女性 未婚者
8 外食				
9 趣味			自営	女性
10 嗜好品				
11 旅行やレジャー				
12 お稽古事				
13 冠婚葬祭				
14 保険	自営			
15 ローン・クレジット				
16 住宅住居関連				未婚者

1 男性の特徴

全体N130 男性N98 偏差値

全体と比べた男性の特徴は、「交際費」にみられた。

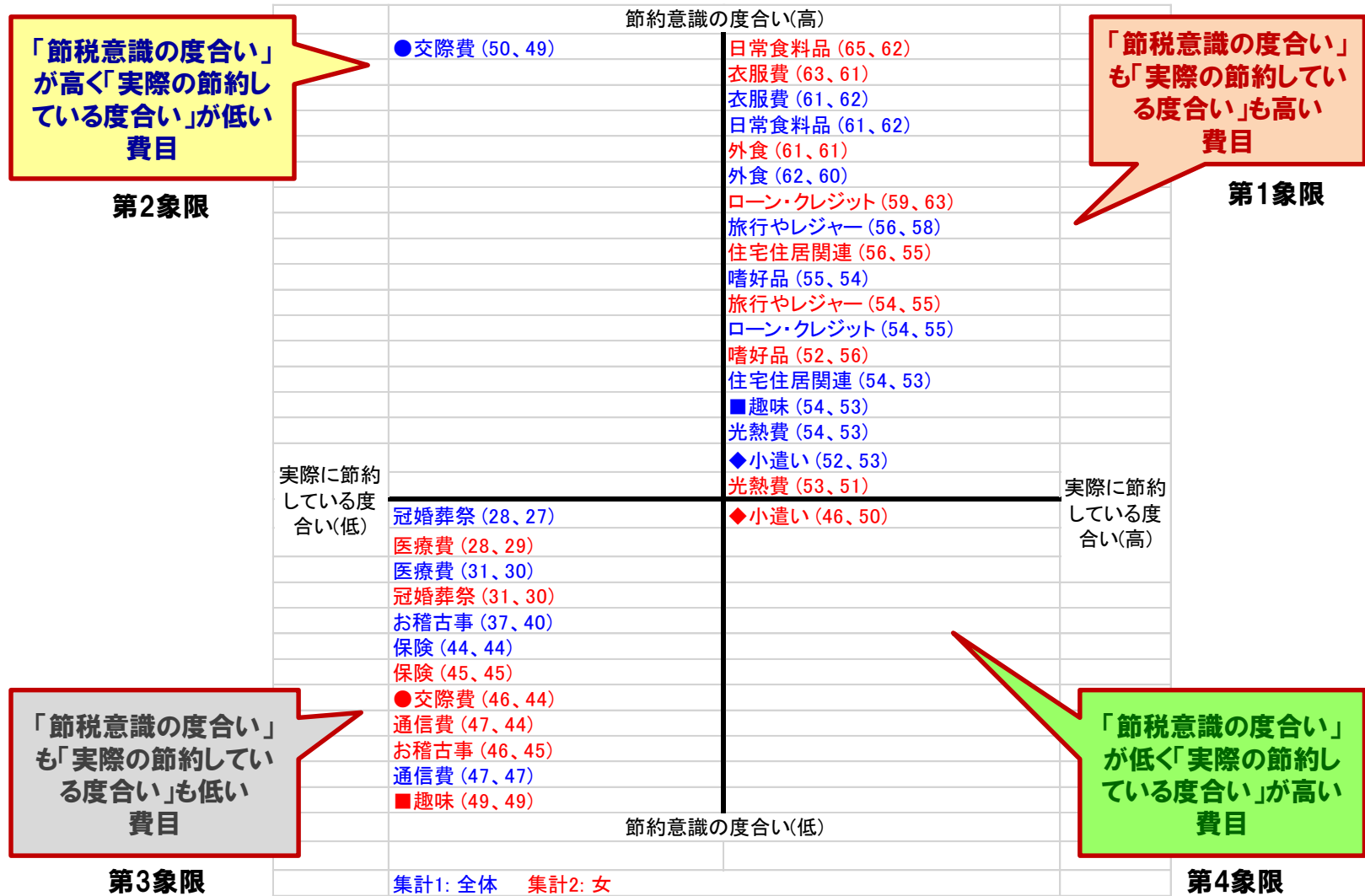
「交際費は」、「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」とも高い。



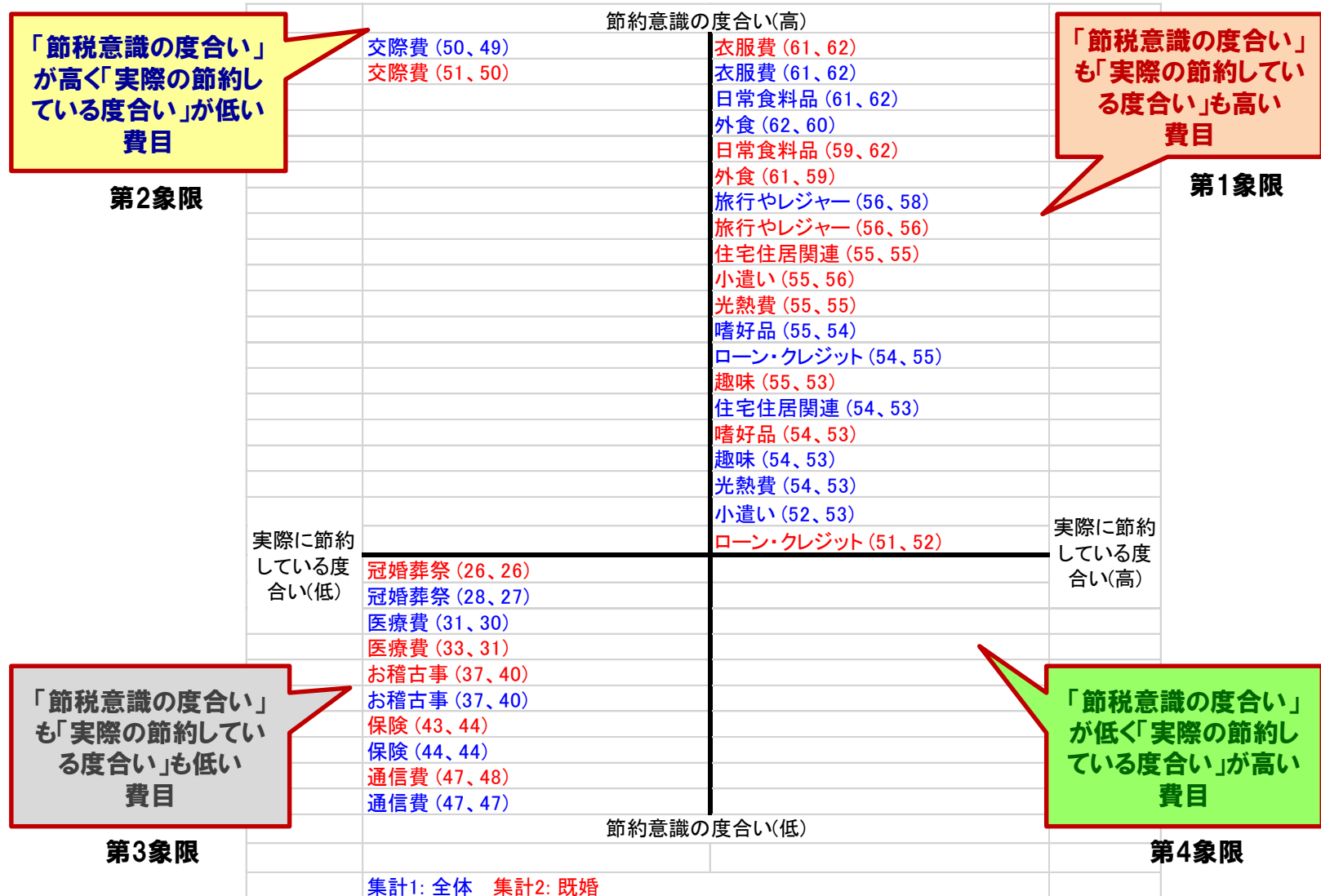
2 女性の特徴

全体N130 女性N32 偏差値

全体と比べた女性の特徴は、「交際費」、「趣味」、「小遣い」の3費目にみられた。
 「交際費」、「趣味」は、「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も低い。
 「小遣い」は、「節税意識の度合い」が低く「実際の節約している度合い」が高い。



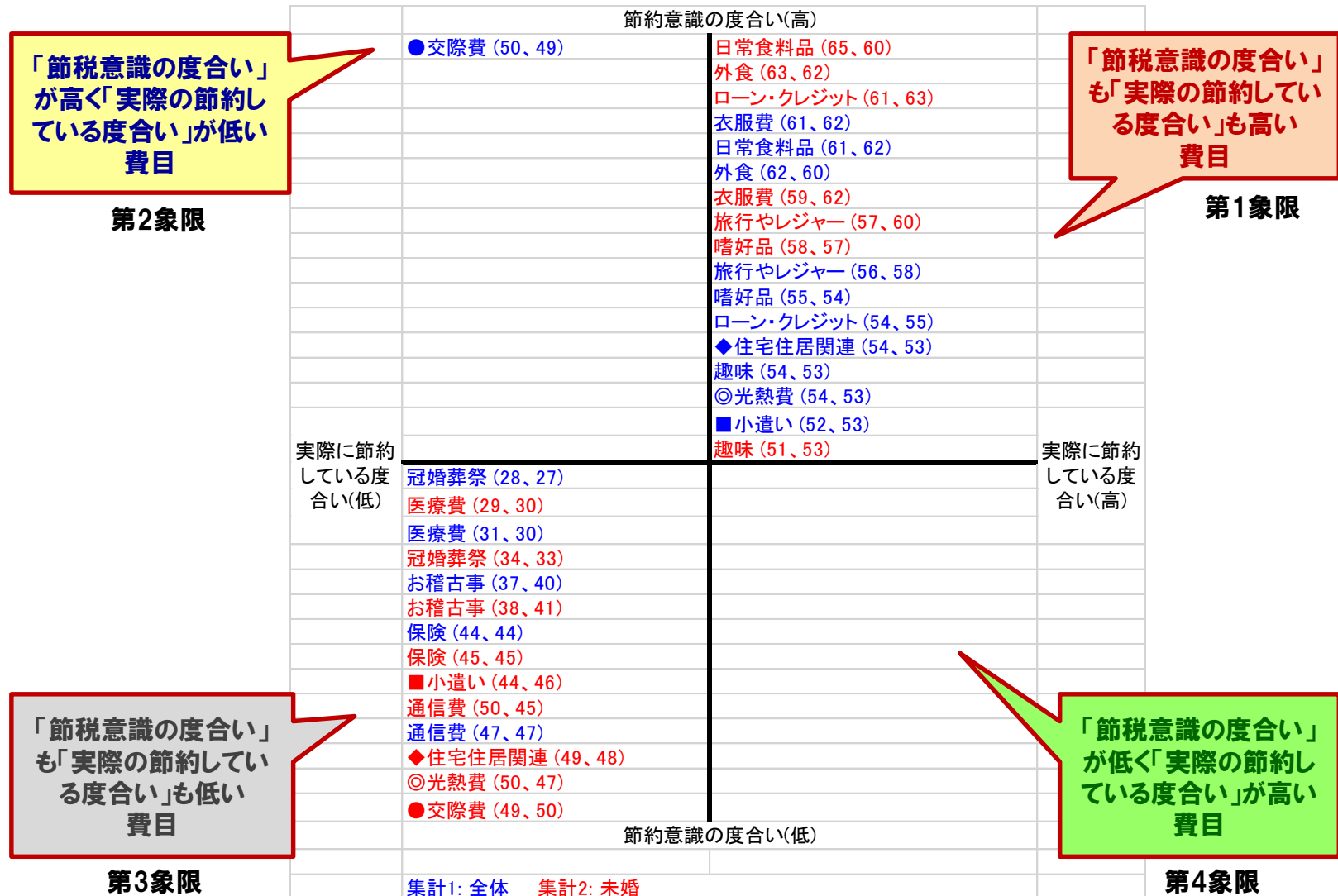
全体と比べた既婚者の特徴はなかった。



4 未婚者の特徴

全体N130 未婚N33 偏差値

全体と比べた女性の特徴は、「小遣い」、「住宅住居関連」、「光熱費」、「交際費」の4費目にみられた。「小遣い」、「住宅住居関連」、「光熱費」、「交際費」はともに、「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も低い。



* 赤印の記号が特徴費目

表②は、「節約意識」と「節約行動」について、4象限プロットからみた全体と比較した年代別の特徴をまとめたものである。特徴の捉え方は、意識の高低差はあるものの、節約行動の高低に基点をおいて次のように表現した。（詳細は次ページ以降を参照）

- ・30代は、「小遣い」、「交際費」を節約しない。
- ・40代は、「光熱費」、「通信費」を節約し、「ローン・クレジット」、「住宅住居関連」を節約しない。
- ・60代は、「交際費」、「ローン・クレジット」を節約し、「趣味」、「嗜好品」を節約しない。
- ・50代は特徴はなかった。（全体と同じであった。）

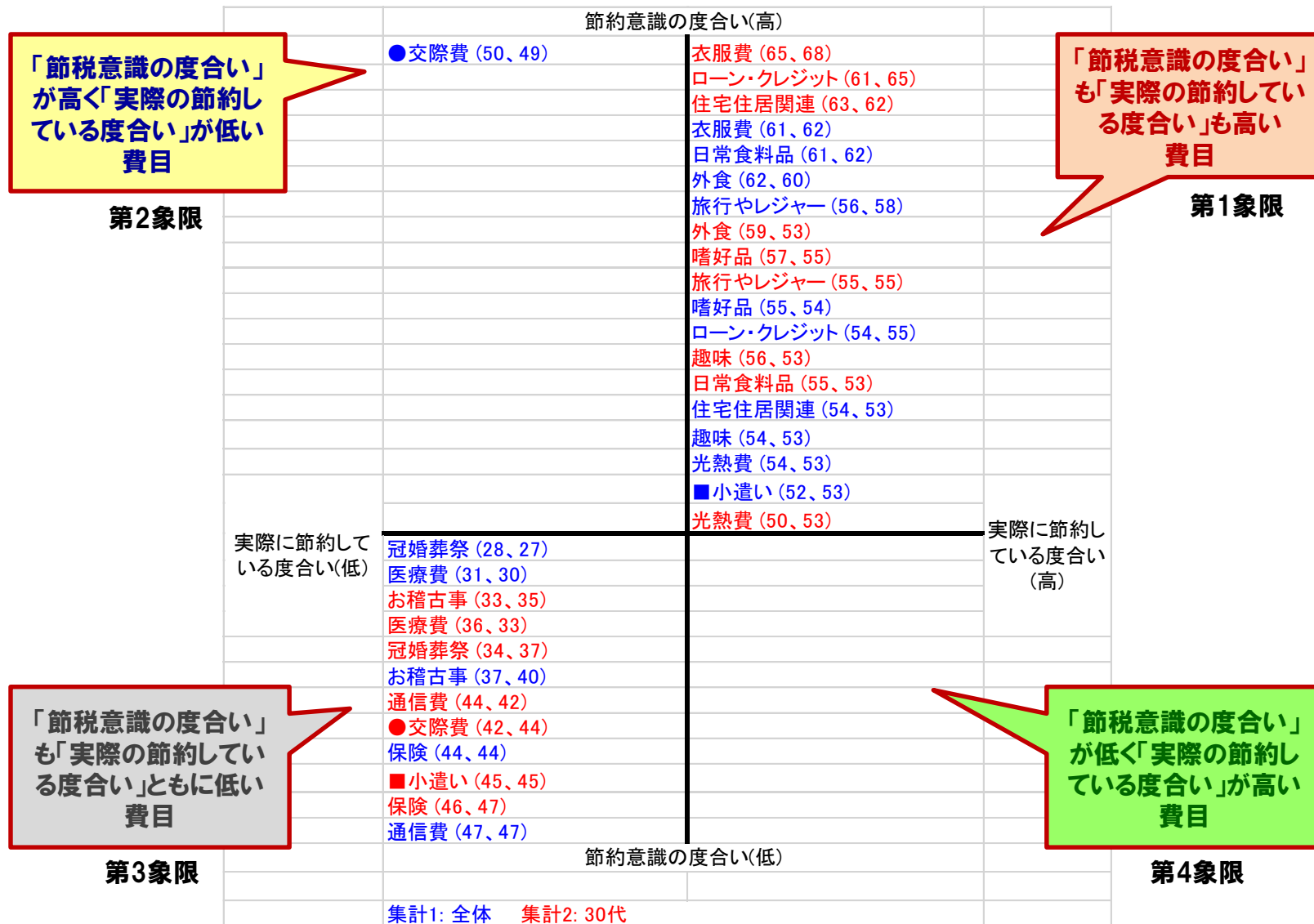
表②

		第1象限	第4象限	第2象限	第3象限
		「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も高い	「節税意識の度合い」が低く「実際の節約している度合い」が高い	「節税意識の度合い」が高く「実際の節約している度合い」が低い	「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も低い
節約意識		相対的に節約意識が高い	相対的に節約意識が低い	相対的に節約意識が高い	相対的に意識が低い
節約行動		相対的に節約する		相対的に節約しない	
1	日常食料品				
2	光熱費		40代		
3	通信費		40代	60代	
4	小遣い				30代
5	医療費				
6	衣服費				
7	交際費	60代			30代
8	外食				
9	趣味				60代
10	嗜好品				60代
11	旅行やレジャー				
12	お稽古事				
13	冠婚葬祭				
14	保険				
15	ローン・クレジット		60代	40代	
16	住宅住居関連				40代

* 50代は特徴なし

7 30代の特徴

全体と比べた30代の特徴は、「小遣い」、「交際費」の2費目にみられた。
 「小遣い」、「交際費」は、「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」ともに低い。



* 赤印の記号が特徴費目

全体と比べた50代の特徴は特なかった。

		節約意識の度合い(高)				
<p>「節税意識の度合い」が高く「実際の節約している度合い」が低い費目</p> <p>第2象限</p>		交際費 (50、49)	日常食料品 (64、66)	<p>「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」も高い費目</p> <p>第1象限</p>		
		交際費 (52、49)	嗜好品 (64、60)			
			衣服費 (61、62)			
			日常食料品 (61、62)			
			外食 (62、60)			
			衣服費 (56、60)			
			外食 (59、55)			
			旅行やレジャー (56、58)			
			光熱費 (56、55)			
			小遣い (56、54)			
<p>「節税意識の度合い」も「実際の節約している度合い」ともに低い費目</p> <p>第3象限</p>			嗜好品 (55、54)	<p>「節税意識の度合い」が低く「実際の節約している度合い」が高い費目</p> <p>第4象限</p>		
			ローン・クレジット (54、55)			
			住宅住居関連 (53、55)			
			住宅住居関連 (54、53)			
			ローン・クレジット (52、55)			
			趣味 (54、53)			
			旅行やレジャー (51、55)			
			光熱費 (54、53)			
			小遣い (52、53)			
			趣味 (52、51)			
	実際に節約している度合い(低)	冠婚葬祭 (28、27)		実際に節約している度合い(高)		
		冠婚葬祭 (29、28)				
		医療費 (31、30)				
		お稽古事 (33、34)				
		医療費 (38、37)				
		お稽古事 (37、40)				
		保険 (42、41)				
		保険 (44、44)				
		通信費 (43、45)				
		通信費 (47、47)				
			節約意識の度合い(低)			
		集計1: 全体	集計2: 50代			

右図は、16費目の節約行動について、ピアソンの相関係数を表したものである。

相関係数が0.6以上の2項目の間には、強い相関があるとされることから、次の2項目の節約行動は強い相関があるといえる。

消費者は無意識のうちに同じカテゴリーとしていると解釈できる。

- ・「通信費」と「光熱費」
- ・「外食」と「交際費」
- ・「嗜好品」と「趣味」
- ・「冠婚葬祭」と「お稽古事」
- ・「ローン・クレジット」と「保険」
- ・「住宅住居関連」と「保険」
- ・「住宅住居関連」と「ローン・クレジット」

費目	相関係数	費目
(行動)通信費	0.6	(行動)光熱費
(行動)外食	0.7	(行動)交際費
(行動)嗜好品	0.7	(行動)趣味
(行動)冠婚葬祭	0.6	(行動)お稽古事
(行動)ローン・クレジット	0.7	(行動)保険
(行動)住宅住居関連	0.6	(行動)保険
(行動)住宅住居関連	0.7	(行動)ローン・クレジット

END